いのちの森づくり 2020 植樹祭実施レポート

団体名		三菱商事・横浜市立大学・ナイロビ大学
活動名		宮脇方式による熱帯林再生
実施日		2019 年 5 月 9 日（木）
実施場所		ケニア国ナイロビ大学シロモキャンパス
実　施状況	**参加人数**	50 名
	植樹本数	500 本
	植樹樹種	Croton megarocarpus, Cordia africana, Warburgia ugadensis, Olea europea subsp. africana など 12 種
	指導先生の参加の有無	なし。藤原が指導した。
	実施内容・イベント	三菱商事による宮脇方式による熱帯林再生プロジェクトの三大大陸の最後のアフリカにおける熱帯林再生実験のまとめ植樹でもある。またナイロビ大学シロモキャンパスの植樹のまとめ植樹であり、小規模だが、川の氾濫を堰き止めるマウンドの繋ぎを形成した。宮脇先生が最後に植樹された 2014 年植樹地は 8 m に成長した鬱蒼とした森になり、昨年の植樹地は 1.8m に成長した間をつなぐ 2019 年度の植樹であった。大学の夏休みに入り、大半の学生は帰郷していたが、試験に残った学生たちが参加した。小規模であるが、副学長と学部長も顔を出し、大学として応援していることがわかった。
	活動の狙いや工夫等	今年は予算も限られ、大きなセレモニー費が算出できない関係から、学生の環境教育を大きな目標として、参加できる学生が参加することにした。ナイロビ大学生物・物理学部のシニア講師キボイ博士が全学に告知し、参加を呼びかけた。今回は小規模の植樹のため大々的な募集はしていなかったが、横断幕の呼びかけで途中参加の学生もあった。参加者には、ケニアの環境、ナロビ大学の潜在自然植生、樹種、宮脇方式の植え方および三菱商事の植樹活動を記載した冊子を配布した。
	特記事項（参加者の声など）	・植樹した学生たちは、次々に試験に向かっていった。日本では、試験前に植樹に参加する学生がいるだろうか疑問である。 ・参加したワーカーたちが、自分達でも植えたがり、学生が試験に行った後も植え続け、残った学生たちとマルチングまで終了し、残ったゴミを片付け、道具をもって戻って行ったまじめさに、ケニア人の別面を見た思いがした。 ・後から来た学生も嬉々として植えていた。植えることを楽しんでいた。
	活動写真	

2018 年 5 月植樹地。宮脇先生のケニア最後の植樹地。

2019 年 5 月 9 日植樹地

2018 年 5 月 10 日植樹地

担当者連絡先	〒2570015　神奈川県秦野市平沢 1221 横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究院　特任教授　藤原一繪 ☎　045-787-2317 E-mail　fujiwara-kazue-sh@ynu.ac.jp